

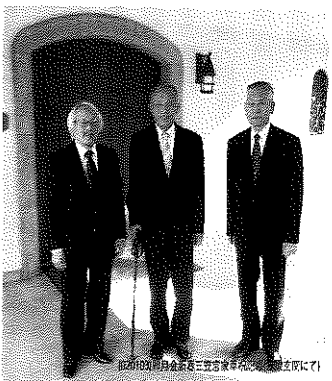
# 四十八期

(卯月会) 担当 衣笠 陽雄

## 新年三笠宮家奉祝記帳

卯月会事務局長 衣笠陽雄

新春恒例の行事である新春三笠宮家奉祝記帳に、弘田雅敷代表、畑 邦夫会計、衣笠陽雄事務局長の3名で宮家に伺った。例年奉祝記帳は元日から3日まで受け付けているが、卯月会は混雑を避けて3日に伺うのを常としていた。それでも多いときは応接室が満員となる事が多かった。しかし殿下が亡くなられてからは訪問客も減少した様で寂しくなった。当日訪問時も我々の他は1名だけで寂しく感じた。しかし妃殿下がお出ましになり、お元氣に対応されたので安堵すると共に、我々も元氣を頂いた。初めて新年奉祝に参加された弘田代表も「珍しい体験をさせてもらった。百合子妃殿下がお元氣そうにお出ましになられたので安心



した」との所見を持たれた。今回も豪華祝膳を頂き、三笠宮家の安寧をお祈りしつつ、宮家を後にした。(写真は三笠宮家玄関前)

中近東文化センターを研修して

卯月会会員 石田順子(片桐直 長女)

冬晴れの武蔵野に古代オリエント

殿下の深き研究を知る

今回、中近東文化センターを訪れる機会に恵まれ、創立の大本となった三笠宮崇仁殿下の研究の経過・成果に触れることができ、深く感心、感動いたしました。

苦難の戦争を経て、若き殿下は、世界の文化に目を向けられ、まず旧約聖書を読むことを始められました。そのためにはヘブライ語を習得する必要があり、文字・文法・発音を完璧にマスターされました。東京女子大の学生達に講義された細かく美しいノートが展示されています。世界の文化発祥の地としてオリエントの歴史・地理に研究のテーマを置かれ、緻密・綿密な研究を続けられ、貴重な遺産を残されました。殿下手作りの中近東の歴史年表の細かく美しい展示には、殿下のお人柄、研究のご姿勢を見る思いが致しました。